

1992年度研修部会報告（板橋研修室）

小 松 進

（法 学 部 教 授）

〔法学研究所研修部会長〕
〔板橋研修室室長〕

1. 研修事業について

1) 研修事業全般について

- ・今年ほぼ昨年通りの基本方針・カリキュラムで研修講座を開設した。
- ・3月24日 大東会館において講座担当講師連絡会を開催した。今年度の講座担当講師19名の出席があり研修講座の改善等について意見交換を行った。学生の学習意欲の喚起や講座回数の増加の要望など貴重な意見が出された。
- ・3月29・30日 法学研究所研究班の合同合宿研究会が行われた際に、研究所の拡大運営委員会が併せて開催され、研修事業についても若干の意見交換がなされた。司法試験コースの指導を効果的に進めるために、学部カリキュラムの司法コースとの連携を検討すべきではないかといった意見も出されたが、調整すべき点も多く今後の検討に委ねることになった。

2) 公務員試験の受験指導について

今年度も東松山校舎・板橋校舎の両キャンパスで公務員志望者を対象とする講座を開設した。東松山では昨年を上回る受験者があったが、板橋校舎では年来の傾向ではあるが受講者が著しく少なかった（12名）。とくに4年生は2名で法学部は0であった。3・4年生については就職部で開設している公務員講座があるため学生はそちらのほうを受講しているようであり、研究所としては次年度以降の開設について検討を要する。

3) 講演会など

- ・6月30日 講師に元最高裁判所判事谷口正孝氏を迎え「刑事裁判について考える一国民の司法参加を中心として一」という演題で法学部との共催により講演会を開催した（板橋校舎）。当日は休講・振替出席の措置を講じたこともあり、出席者も多く熱心な質疑が交わされた。（なお、講演内容は大東法学に掲載予定。）
- ・10月16日 1・2年生を対象に2人の女性弁護士を講師に迎えて東松山校舎で講演会を開催した。演題は次の通り。

「警察は少年達をどう扱っているか」（羽倉佐知子氏）

「いのちと健康をめぐる法律問題」(中野麻美氏)

4時限目であったが出席者が多く講演終了後も活発な質疑が交わされ、予定時間を大幅に超過するほどであった。

- ・12月11日 東京司法書士会の全面的な協力により東松山校舎において「司法書士ガイダンス」を開催し、司法書士の業務、試験、受験対策などについて講演と質疑応答の機会をもった。

2. 板橋研修室の事業について

①司法試験コース

・昨年度から東松山(1・2年生)、板橋(3・4年生、卒業生)の両キャンパスで司法試験受験者用の講座を開設した。板橋研修室の講座については、昨年に引き続き憲法・民法・刑法の三科目について司法修習生による指導を行い受講生は多くはなかったが、基礎固めは進んでいると思われる。また、債権各論・刑法各論について講座を開いた。

②公務員コース

・前述のように受講生が少なく今後継続するか検討を要するところである。

③司法書士コース

・昨年通りのカリキュラムを準備したが、今年度は在校生の希望者がなかったため、講義は実施しなかった。

1・2年生に対するガイダンスが不十分であったことが原因と思われるが今後の検討を必要とする。

④宅健コース

・今年度も合格者を出したが、社会情勢の影響かとも思われるが受講希望者が多くはなかった。

3. 開講科目等について

1) 受講者数

| コース/学年 | 3年生 | 4年生・卒業生 |
|---------|-----|---------|
| 司法試験コース | 2 | 2 |
| 公務員コース | 10 | 2 |
| 司法書士コース | 0 | 1 |
| 宅建コース | 3 | 2 |

計

15

7 (22)

2) 開講科目・担当講師

・公務員コースⅢ

| | |
|------------|------|
| 行政法 | 柏崎敏義 |
| 民法3 (債権各論) | 平田陽一 |
| 行政学 | 川上紀一 |
| 政治学3 | 加藤普章 |
| 経済原論 | 石橋春男 |

・公務員コースⅣ

| | |
|-----|-------|
| 憲法 | 押久保倫夫 |
| 行政法 | 柏崎敏義 |
| 民法 | 平田陽一 |
| 行政学 | 川上紀一 |
| 政治学 | 瓜生洋一 |

・司法試験コースⅢ・Ⅳ

| | |
|------------|------|
| 刑法2 | 中谷瑾子 |
| 民法Ⅳ (債権各論) | 沖野威 |
| 憲法 | |
| 民法 | |
| 刑法 | |

・宅健コース

| | |
|--------|-------|
| 法令上の制限 | 加藤輝夫 |
| 宅建業法 | 加曾利俊三 |
| 総合演習 | 加藤輝夫 |